

## I 実践

### 1 研究主題

「人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進」

#### (1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「豊かな心、強いからだ、考える力」を持ち、実践人の育成であり、目指す児童像は、「豊かな心を持つ」「強いからだを持つ」「考える力を持つ」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「好ましい人間関係をつくり、誰に対しても優しく接することができるどもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、お互いに認め合い、助け合う子どもの育成」としている。本校の児童が、落ち着いた学校生活が送れるよう高学年児童へのさまざまな働きかけや教師の意識した共働、共遊、声かけなど指導が行われている。しかし、生徒指導部が、毎月全児童対象に行っている「学校生活調べ」では、毎月「今いじめられている」「からかわれている」と答えている実態がある。

そこで、「いじめられている」と感じたり、訴えたりしている児童が安心して楽しく生活できるように、みんなの合言葉「会瀬あいうえお」の決まりを守ったり、体験的な活動を通して友だちとの関わり方や身の周りの問題を自分で解決しようとする気持ちや態度を育てることができれば「いじめゼロ」につながるものと考え本主題を設定した。

#### (2) 研究内容

- ア 人権を尊重する人間関係づくり
- イ 人権を尊重する学習活動の推進
- ウ 人権を尊重する環境づくり



### 2 実践内容

#### (1) 人権を尊重する人間関係づくり

##### ア 縦割り班活動による異学年交流

各クラスを12班に分けて縦割り班を作り、年間計画のもと、ほぼ毎月1回異学年集団で交流を図っている。「決められた活動場所でみんなが安全に楽しく遊ぶには。」と6年生のリーダーを中心に高学年が真剣に話し合いに取り組んでいる。異学年交流の場を地域の行事にも広げ、砂遊び集会では、砂の造形を共同で制作したり、持参したおにぎりを「おいしい」と言いながら食べ笑顔で集合写真を撮ったりして、楽しく交流学习を行った。さらに、さまざまな活動場所で交流を意識しながらの活動や遊びは、少しずつ児童の成長につながった。下級生を思いやり、上級生を見て学び、互いが互いを思いやり感謝の気持ちを育てるよい機会になった。

##### イ 高学年による「スマイルプロジェクト」

6年生が最高学年として、「明るく、楽しく、きれいな学校にしたい。みんながスマイルな学校にしたい。」という思いが生まれた。自分たちが継続的に進んでできることは何かを考え、「あいさつ運動」からスタートした。今年で5年目、「あいさつ」「清掃」「なかよし」を柱に「会瀬スマイルプロジェクト」として活動している。児童みんながスマイルで、一生懸命学校のために働く姿は、他学年の児童にも感謝の気持ちが伝わり一緒に参加し、優しさや友達を気遣う心の育成につながった。

## (2) 人権を尊重する学習活動の推進

### ア いのちの教育（4年生）

保健師さんをお招きして、保護者とともに生命の神秘やいのちの尊さについて学習した。学習後のアンケートの結果、命の大切さや親の願い、誕生した時の周囲の喜びなどを知り、自尊意識を高めるとともに自分や自分以外のまわりの人を大切にしようとする心を育てる機会となった。



### イ 道徳の授業公開

学習公開日に各クラスとも1年間に1度は道徳の授業を公開している。また、今年度はこれを通して保護者に道徳教育の必要性を理解してもらおうとともに人権教育の啓発にも努めた。

### ウ ハッピースマイル大作戦

6年生の「スマイルプロジェクト」を受けて、「いじめゼロ」を目指すため、特活部を中心に「ハッピースマイル大作戦」という集会を実施した。各学級で、いじめのない楽しい学級にするためのスローガンを話し合って発表した。児童一人一人が書いたメッセージを掲示すると友達メッセージを読んで考えたり、会話したりする姿がみられた。さらに、JRC委員会の児童が身近な言動やいじめについて考える寸劇を行ったり、全校児童が異学年の児童と触れ合い、歌を歌ったりと心が温くなる交流学习であった。

## (3) 人権が尊重される環境づくり

### ア ハートいっぱいけやきの木

全校児童が利用する階段わきのスペースに、「ハートいっぱいけやきの木」を作り、授業や学級の問題、行事などを通して、児童が感じ取った気持ちをミニメッセージとして書いたカードなどを掲示していった。また、校内にある花や木を使ってリースを作り、6年生が卒業時に残したい言葉を書いてそのリースに貼り付け、特別教室の入り口に飾っている。校内に心を温かくする言葉がふれている。



### イ 「親守詩の作品」「人権メッセージ」への取り組み

夏休みの宿題に親守詩を入れ、感謝と親心を表現するキャッチボール短歌に取り組む機会を設けた。心温まる短歌に感動し、毎年少しずつ作品数も増えてきた。また、自分の良いところ発見や「ハッピースマイル大作戦」を通して、生活する中で必要な言動などについてメッセージを書いて掲示し、人権に対する意識を高めることができた。

## 3 成果

- (1) 学校生活全体を通して、上級生が自然と下級生に心くばりをし、下級生は上級生を手本とする態度が育ってきた。心のふれあいが学校に元気と温かい雰囲気を作り出している。
- (2) 教育活動全体を通して、自分以外の人も認め、尊重する態度が養われてきている。継続したり繰り返し学習したりすることで人権尊重の意識が深まっている。

## II 今後の課題

教職員の人権意識が不可欠であるので、校内研修を実施し、継続的に人権感覚の涵養を図りたい。

## III 人権コーナー設置の様子



ハートいっぱいけやきの木

コメント

手作りリース